

<p>合いことば</p> <p>知性白新 / 明朗白新 / ファイト白新 /</p>		<p>教育目標</p> <p>知性の高い 生徒になる</p>
--	--	------------------------------------

【2023年度 全国学力・学習状況調査結果について】

3年生を対象に4月18日に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果が届きました。この結果を校内で分析し、国語・数学・英語における今後の対策を検討しました。これからの学習指導に生かしていきます。

《各教科の平均正答率 (%)》

	国語	数学	英語
全国	69.8	51.0	45.6
新潟県	70	49	41
白新中	81	65	63
全国との差	+11.2	+14.0	+17.4

《分析》 ○…よかった点, △…よいが, 改善可能な点, ×…対策が必要な点

《分析および対策》

【国語】

- (1) 学力調査について
 学習指導要領に示されている内容のうち、『知識及び技能』で、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率が67.6%で、全国平均の67.5%より若干高いものの、県平均の68.0%より低かった。また『思考力、判断力、表現力等』にある項目は全体的に全国平均よりは10ポイント以上高いものの、「読むこと」に少し課題がある。
- 「目的や場面に応じて質問する内容を検討する問題」の正答率が9割を越えた。
 →活動の目的を共有した上で行うプレゼンやパフォーマンスを各単元で取り組んでいる。その中で生徒同士のアドバイス、単元後の振り返りが成果として表れたと考えられる。
 - 「文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述をもとに捉え、要旨を把握する問題」の正答率が全国平均より9.6ポイント高かった。
 →説明的文章や評論の学習において要約の方法をいくつか提示し、自分に合った要約の方法を選択し、取り組んだ成果と考えられる。
 - △「古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉える問題」の正答率が82.4%と全国平均の74.1%より高いものの、正しく古語の意味を捉えていない様相が見られる。
 →古語に対する口語訳の語彙が少ない。言葉の本質的な意味を捉えさせるために授業の導入時に基本語句を抑えるなど言語活動の充実を図っていく。
 - △「読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える問題」の正答率が67.6%と全国平均の54.3%より高い数値ではあるが、7割に満たない。
 →パフォーマンスやテストにおいて、文章を書くときの注意点を再度意識させ、推敲して丁寧にフィードバックを行っていく。
 - ×「文脈に即して漢字を正しく書く問題（*おし量るの推しの書き取り）」の正答率が44.1%と低かった。
 →毎時間の始めに行っている漢字5問テストを継続し、漢字の書き取りの定着につなげていく。

(2) 生徒質問紙について

- 「国語の授業で自分の考えを分かりやすく伝えるために聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫していますか」と「国語の授業で、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書いていますか」の肯定的な回答が多かった。
→定期テスト以外に、パフォーマンス（プレゼン、作文等）を単元で取り組んできたことの成果と考える。今後も自分の思いを他者に伝える活動を課題として設定していく。
- ×「国語の授業で文学的文章を読み場面の展開や登場人物の心情などについて、描写を基に捉えているか」の肯定的な回答が2割に満たない。
→描写や情報に線を引くなど、読解における基礎的活動を個に応じて支援していく。
- ×「行書の基礎的な書き方（「点画の連続」や「点画の省略」、「筆順の変化」など）を理解して書いているか」の肯定的な回答が3割程度であった。
→2年生の秋の毛筆の授業で、行書についての指導をしたが、今後硬筆習字の練習の際に楷書と行書の違いを理解・定着できるように意識的に課題を設定していく。

【国語の結果を受けて】

<継続>

- ・プレゼンやパフォーマンス等、自分の思いや考えを表現する活動を各単元内に設定していく。
- ・漢字5問テストを継続し、文脈に沿った漢字の書き取りができるようにしていく。

<改善>

- ・各単元で行ったパフォーマンスの振り返りを行う際、自分の作品に対し推敲する時間を設定していく。
- ・漢字テストの時間に、適宜硬筆で行書を書く時間等を設ける。

【数学】

(1) 学力調査について

学習指導要領における4つの領域、「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」のいずれも正答率が全国平均より9ポイント以上高かった。

- 評価観点のうち、『思考力・判断力・表現力等』の問題の正答率が全国平均と比べて+18.7と大きく上回った。
- 無答率が低く、最も多くて8.8%（同問題の全国は無答率は24.7%）であった。
- △「図形」領域は正答率が全国平均と比べて+22.7と大きく上回ってはいるが、6割に満たないため十分とは言えない。
→証明の問題にやや課題がある。知識量が多い単元であるため、基本的な知識が身につけていないために、正確な論述ができていない可能性がある。1つ1つの知識について丁寧に学習を進め、繰り返し復習できるようにしていく。
- ×「反比例の問題」の正答率が45.6%と最も低かった。次いで、「累積度数の問題」の正答率が47.1%であった。全体として、1年生の学習内容の正答率が他の問題に比べて低かった。
→単元ごとに、既習事項を丁寧に振り返られるようにしていく。

(2) 生徒質問紙について

- 数学の学習に関する項目すべてで肯定的な回答が全国を上回った。
- 「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」で“当てはまらない”と答えた生徒が0人。
- △「数学の勉強は好きですか」の肯定的な回答が8割に満たない。
→授業の中で、日常の事象と関連付けた問題を提示したり、論理的な思考や論述を必要とする課題を提示したりしていた結果だと思われる。引き続き、生徒が将来に有用と思えるような学習を展開していきたい。

【数学の結果を受けて】

<継続>

- ・日常の事象と関連付けた問題を提示する。
- ・論理的な思考や論述を必要とする課題を提示する。

<改善>

- ・既習事項の振り返りを丁寧に行う。

【英語】

(1) 学力調査について

学習指導要領に学習指導要領に示されている4つの領域、『聞くこと』、『読むこと』、『書くこと』のいずれも正答率が全国平均より大きく上回ったが、一部正答率が低い問題もあった。

- 『聞くこと』まとまりのある英文を聞いて、①自分が置かれた状況から判断して必要な情報を聞き取る問題の正答率が70.6%（全国平均41.2%）②要点をとらえる問題の正答率が70.6%（全国平均54.8%）と全国よりも10ポイント以上高かった。
- 『読むこと』まとまりのある文章から、語彙や文法事項などの知識を活用し、情報を正確にとらえる問題の正答率が76.5%で、全国平均の56.0%を大きく上回った。
- 『書くこと』文脈をとらえ、適切な文法や言語の働きを理解して、正確に英文を書く問題の正答率が58.8%で、全国平均の40.4%を大きく上回った。
- △『読むこと』日常的な話題について、複数の情報が含まれるまとまりのある文章を読み、自分にとって必要な情報を取捨選択する問題の正答率が61.8%であり、全国平均の35.9%よりは高いが、課題が残る。
 - 教科書“Reading for Information”を活用する。
- △『書くこと』社会的な話題に関して読んだことについて、自分の考えとその理由を書く問題で、無回答生徒が約12%いた。
 - 読むこと、書くことのように複数領域にまたがるような問題に普段から（定期テストなども活用して）慣れさせる。
- ×『読むこと』まとまりのある内容の説明文の概要を捉え、要約文が過不足無く情報が集約されているかを判断する問題の正答率が48.5%と低かった。
 - 教科書“Use Read”で、まとまりのある文章を英文要約する活動を仕組む。
- ×『書くこと』日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書く問題の正答率が13.2%と低かった。
 - まとまりのある文章を書く活動を授業で取り組んでいるが、多ジャンルで書けるように回数を増やしていく必要がある。

(2) 生徒質問紙について

- 「英語の勉強が好きですか。」「授業内容はよくわかりますか。」について肯定的な回答が多い。
- 1、2年生における授業について「概要を聞き取る、読み取る」「即興で考えや気持ちを伝え合う」「まとまった内容の文章を書く、発表する」活動が十分に行われていたととらえている生徒が多い。
- △家庭学習としてのタブレット機器の音声機能を用いた「聞く、話す」の練習について、十分に行われていたと言えない。
 - 生徒用デジタル教科書を活用した取り組みを組織する。
- △「将来、英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいか。」「授業以外で日常的に英語を使う機会が十分にあるか」に対して、肯定的な回答と否定的な回答が半々ぐらい。
 - 自分の将来は、英語とは接点が少ないだろうととらえている生徒に対してどのように学習に前向きに取り組ませるかが課題。

【英語の結果を受けて】

<継続>

- ・語彙、文法、言語の働きなどの知識・技能面の定着を土台にしながら、まとまりのある文章を聞く・読む・書く・話す活動を通して思考・判断・表現力を身につけさせる。
- ・話す（やりとり）において、即興的に考えを述べたり、相手に質問したりする活動を継続して行う。

<改善>

- ・生徒用デジタル教科書を活用しながら、生徒が自発的に取り組む『音読課題（宿題）』を組織的に実施する。
- ・「読むこと×書くこと」「聞くこと×書くこと」など複数領域にまたがる問題を定期テストなどに取り入れていく。

2 生徒質問紙の結果

各質問に「あてはまる」「どちらかというかとあてはまる」と回答した生徒の割合(%)

《内面について》

質 問	全国	新潟県	白新中	全国との差
自分には、よいところがあると思いますか	80.0	80.4	85.3	+5.3
将来の夢や目標を持っていますか	66.3	65.6	59.7	-6.6
人が困っているときは、進んで助けていますか	88.1	89.4	91.2	+3.1
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	95.5	96.1	97.1	+1.6
人の役にたつ人間になりたいと思いますか	94.6	95.4	98.5	+3.9
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	63.9	67.5	63.2	-0.7
外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか	66.8	65.0	80.9	+14.1
日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか	63.2	64.0	70.6	+7.4

→自己肯定感が高く、人のために動きたいと思っている生徒が多い。一方で、自分が将来就きたい職業やなりたい姿が明確である生徒の割合が全国と比べると若干低い。また、地域に視点をおいた総合的な学習の時間を展開しているにもかかわらず、地域に対する愛着と捉えられる項目の肯定的な回答の割合が低いことも課題である。生徒が教員や地域の方、他の生徒から賞賛される機会となる活動を可能な限り多く仕組んでいくとともに、地域や将来など広く先を見通す姿勢を育めるよう教育活動全体を見直していく。

《学習状況について》

質 問	全国	新潟県	白新中	全国との差
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	55.0	56.7	51.4	-3.6
1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか	62.1	68.5	70.6	+7.9
1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	79.2	84.8	92.7	+13.5
1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	69.1	76.5	85.3	+16.2
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	79.7	84.5	98.6	+18.9
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	69.2	73.5	80.9	+11.7
授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか	69.9	72.9	78.0	+8.1

→「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」の肯定的回答が92.7%と高く、生徒が主体的に学びに向かっている印象を受ける。一方で、「家で自分で計画を立て勉強をしていますか」の肯定的回答が51.4%と低く、生徒が自ら学びに向かう場を設定し、取り組むという意識に課題がある。その原因の1つとして、学習に対し

て受け身の姿勢の生徒がいることが考えられる。生徒が、自分に必要な学習を把握し、目標に向かって計画的に学習に取り組めるように、単元のまとまりを意識した授業計画を徹底していく。また、定期テスト期間を活用し、生徒が目標をふまえた学習計画をたて、自分の学習を振り返りながら取り組めるようにしていく。

《ICTの使用について》

質 問	全国	新潟県	白新中	全国との差
1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか [週3回～ほぼ毎日と答えた割合]	61.1	74.5	98.6	+37.5
学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	93.3	94.8	92.6	-0.7
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか	65.3	68.1	98.6	+33.3

→タブレット等のICT機器を活用した授業を全職員で意識して取り組んでいる。生徒も日頃からICT機器を使って学習を進めている。しかし、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の肯定的回答が使用頻度の割には低い（最も高い「1」と回答した生徒が69.1%）実態がある。生徒が、よりICT機器の有用感を感じ、目的意識をもって学習に活用できるように、授業で使う場面を吟味したり、活用例を示したりしていく。